

# 勿凝学問 351

『日本衰亡史』執筆メモ

政治家によるエリート層の破壊とエリート再生産の失敗

2011年1月23日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

2009年の総選挙のすぐ後、臨床内科医学会に呼ばれた僕は、「今後、どうするんですか？」との質問に、「ギボンの『ローマ帝国衰亡史』のようなものでも書こうかと思っています。時代をどこからはじめれば良いのかというところが、目下、一番の悩みどころですね。今日観察される、なかなか笑える愛すべき日本人の特徴は、いったいどのあたりで生まれてくるのか……」と答えているようである ([2009年10月11日](#))。

先日、仙谷さんが会見で日本の政治家育成に触れていて、それについては、1月19日、20日にホームページに書き込んでいたので、それをここに再掲しておこうと思う——この作業は、僕にとっては、『日本衰亡史』を書いているような気分でもある。

1月19日

うん、仙谷さんの弁らしいが、その通り。

「民主主義をよきまじな制度として持続させるためには、人材養成に意識的に資源を投入していくことが政党にも地域社会にも必要だと改めて感じている」

[「カネ返せ」当然 スカスカ内閣に注目する](#) msn 産経ニュース

この点、僕が同じことを言っているのは、次かな。

逆説的な言い方になるのですが、やっぱり民主主義には、エリートが必要になります。ここで言うエリートとは、福澤先生の言葉を借りれば次の文章における国を患うこと水くさきことなき人物のことです。

「客分とあれば固より心配も少なく、唯主人にのみ依りすがりて身に引受ることなきゆえ、国を患うことも主人の如くならざるは必然、実に水くさき有様なり」

慶應義塾大学通信教育部入学式特別講演 (4月29日)

[「この人民ありてこの政治あるなり」の今日的な意味合い](#) 『三色旗』749号

次もだな。

遠い将来、他国の歴史家たちは、「かつて日本という国があった。しかし滅びた。最大の原因は、他の先進国に比してエリート再生産システムが不健全だったからである」の一言で片付けられるおそれがあると思っていたりもする。

勿凝学問 73 [華麗なる一族によるこの国の改革——インセンティブスキームとしての社会構造の破壊](#)

「投票者の合理的無知」という言葉の普及をはかった僕としては、矛盾しているだろう（笑）。

そこに登場してくる概念が、Ⅲ巻の[序章](#)に出てくる「異端」という言葉になる。権力論に夢中だった頃、必然的に、エリート論もいろいろと読んでいた・・・恐ろしく暇だったもので。。

1月20日

知人よりメールが来る。

- ＞ これは、「議員が政治家としての資質を備えていない」ということを
- ＞ 白状しているように聞こえるのですが。。

うん、誰にでもそう聞こえるだろうし、正確な事実認識だろうね。さて、ニッポンはこんな状況だ。どうするよ、学生諸君（笑）。

仙谷官房長官会見録 1月13日

ずっと申し上げているように、この、人材養成というか、政治人材というか、日本を経営する人材づくりというのを意識的にやる期間がほとんどないということがですね、リーダーシップのある種の問題をもたらしておるのではないかと、そんなふうに思います。

これはたまたま、いろんな諸条件に、僥幸的に恵まれた結果だったんだろうと思います。1980年までは、あるいは90年までは、そういう意味では、官僚出身の非常にリテラシーの高い方々が政治の場に進出をしてですね、竹下内閣までは、経営に当たってきた。

ただ、これ、成長期で、キャッチアップ路線でできたということもあってですね、有能な官僚機構を使いながらというか、そこに依拠しながら国家経営を行ってきたという時代だったんだろうと思います。

それ以降、やはり、まさにベルリンの壁が崩壊して以降、ある意味、日本も世界も針路なき、あるいは海図なき世界に突入してきたときにですね、その自民党、

さすがの自民党さんも、それから、野党のほうもそうですけれども、ある種のそういう、こう、練り上げたというか、世の中でも練られたというか、そういう人材が大変少なくなっておってですね、何か二世世襲路線みたいなどころに入っていっちゃったというです。このツケがやっぱり大きいんだろうなあと。

つまり、だから目的意識的にその政治人材をつくろうとする教育機関なり、そういう集団なりが、そこで時代に対応できる、そういう機関とか、組織とかがなかったということだけは確かなんで、そのところは民主党だけの問題じゃなくて、自民党さんも含めたすべての政党の、特に主要政党といたら叱られるかもわかりませんが、2大政党による政党政治が始まった。これを息づかせるためにはどうか、この2大政党による政党、政権交代のある民主主義を、何というんでしょう、それが、よりましな制度として持続させるとすればですね、人材養成に、目的意識的に資源を投入していくということが、政党にも、あるいは地域社会にも必要なんだと、改めて、今、感じています。

昨日紹介した次の記事参照

- [「カネ返せ」当然 スカスカ内閣に注目する](#) msn 産経ニュース

ちなみに、先日、ゼミ卒業生のメーリングリストに送った僕のメールの最後。

みんなも、本を出したり、俳優さんになったりしたら、連絡を。  
政治家になったときは、連絡は要らんけどな。。

関係する文章——政治家によるエリート層の破壊関連

勿凝学問 53 [国家公務員と新聞記者の仕事、どっちの方が高い報酬で報われるべきなんだろうか?—人事院「民間企業の退職給付等の調査結果」はおもしろい](#)

勿凝学問 72 [「天下り」のほかに「回転ドア」という言葉も知っておこうか—学者は政治家よりはましな生き物なのかもしれない](#)

勿凝学問 73 [華麗なる一族によるこの国の改革——インセンティブスキームとしての社会構造の破壊](#)

勿凝学問 178 [度を超えた官僚叩きという小泉路線の一番の後継者は小沢民主党だろう——小泉氏引退表明の日](#)

勿凝学問 244 [この国をダメにする政策を官僚が提言すれば、世の中きつとうまくいくという話](#)

勿凝学問 296 [官僚を萎縮させる方法—江戸の敵は長崎で討つ、という脅しは効果観面だろうか](#)

勿凝学問 335 [政権交代と、それはそれは立派な政治主導](#)